

小生ノ名ヲ以テ書カレタル誤多キ茸ノ記事ニ就テ

Ramalina ト Rocella トノ根本的ノ相違ヲ決スルニハ葉體ノ横斷面ヲ顯微鏡デ見ルノガヨイ即チ Ramalina ニアリテハ最外部ニ擬柔組織ノ皮膚ガアリ次ニ葉體ノ長軸ノ方向ニ伸ビタ纖維狀菌絲束 (Strengthening Hyphae, mechanische Gewebe) ガアツテ最内部ノ疎ナル髓層ヲ包ンデ居ル、Rocella ノ方ハ其皮層ハ Hue 氏ノ所謂 fastigiate cortex ニ屬シ葉體ノ外側ニ近ク通走スル菌絲ガ其分枝ヲ外方ニ轉ジ束狀ヲナシテ居ル、其他横斷面ニ漂白粉溶液ヲ注グニ Ramalina ハ何モ反應ガナイケレドモ Rocella ノ方ハ赤色ヲ呈スル、Ochrolechia tartarea ハ一名 Lecanora tartarea トモ云ハレ吾國ノ山地ニモ稀ニ産スル固着地衣デ其葉體ハ亦漂白粉溶液ニヨリ赤色ヲ呈スル、要スルニ「リトマス」色素ノ原料ハ漂白粉デ赤色ヲ呈スル地衣酸(例ヘバ「レカノール」酸)デアルノデ吾國ニハ「レカノール」酸ヲ澤山含有シテ居ルうめのきごけ、なみがたうめのきごけガアル以上何モ Rocella ノ無キヲ憂ヘルニ及バンガ若シモ誰カガ何處カデ見付ケ得タトキハ分布上大變興味アルコトニナル

○小生ノ名ヲ以テ書カレタル誤多キ茸ノ記事ニ就テ

理學博士 川 村 清 一

本年九月印刷セル東京大正通信社發行『國際畫報』十月號中ニ二頁大縦一尺二寸五分 横一尺六寸ニ三彩版刷ノ茸ノ美シイ澤山ナ圖ガ載セラレテキルノハ一日其畫報ノ記者ヨリ乞ハル、儘ニ外國ノ菌譜ヤ小生ノ寫生圖等ヲ貸與シテ載セルニ至ツタモノデアルガ其中ノはらたけ(毒)、ひとよたけ(毒)ト記シアルハ共ニ記者ノ誤リニヨリ食毒ヲ顛倒シタモノデアルカラ此圖ヲ參考セラル、方ニハ御注意ヲ願ヒタイ、更ニ別ニ同畫報誌上ニ小生ノ名ヲ以テ書カレテキル「茸に就いて」ト題スル記事ガアルノニ關シテハ右ハ小生ガ寄稿ハ勿論、談話モシナカッタモノデ不徳義ナル記者ガ小生ノ名ヲ借用ニ及ンデ誰レカ他ノ人カラ聞イテ書イタ全部ニ互ツテ誤謬ノ甚シイモノデ小生

ハ之ヲ知ツテ驚イタノデアアル、カ、ル無責任ナル編輯振ヲスル雜誌ノ常トシテ訂正ハ充分スマイト思フニツケ
 テモ永久ニ殘ル印刷物、然モ空前ノ大ナル彩色圖ヲ示シテノ茸ノ記事デアアルカラ萬人ノ目ニ觸レルコト、テ天
 下ノ讀者ヲ誤ルコト甚シク小生ノ甚ダ迷惑スルモノデアアル、誤字、誤植等ノ多イノハマア恕スルトシテモ曾テ
 小生ガ蓋ノ徑三寸ノモノ一個ヲ以テ一時間半ニ蠅六十六匹ヲ捕ヘタコトノアル、ヨク蠅ノトマル茸天狗茸ニ向
 ツテ「はへとまらず」トシテアツタリ少シモ臭氣ノナイ「どくべにたけ」ニ「臭氣あり」トシ紅天狗茸一名赤
 蠅取茸ガ正シイ名ナルニ豫テ小生ガ不可ト言ツテキル「あしたかべにたけ」ナル名稱ヲ用キ然モ其性狀ニ「食
 べると吐血して死ぬ」等トトシテモナイ誤ッタコトヲ出鱈目ニ書キ列ベタモノデアアル、菌ノ名稱、形狀、色彩、
 性狀等ニ關シ誤謬十八個所モアル(記事ハ半頁位デアアルノニ)、コレハ誰レガ見テモ小生ガ懇ニ口語體ニ執筆寄
 稿シタモノトシカ思ヘナイカラ茲ニ本誌ノ貴重ナル紙面ヲ借りテ『國際畫報』ノ茸ニ關スル小生ノ記述ナルモ
 ノハ小生ノ何等關知シナイ責任ノナイモノデアアルコトヲ明カニシテ置ク(大正十五年
 十月廿五日)

○蘭ガ疊ニナルマデ

藥學博士

刈 米 達 夫

余去ル七月薄荷及ビ除蟲菊ノ生産調査ノ爲メ岡山縣下ニ赴キシ際恰モ蘭^カ (*Juncus effusus* L. var. *decipiens*
 Buchen. forma *utilis* Makino)ノ刈取時期デ各地トモ盛シニ收穫ヲナシテ居タガ其乾燥方法ニ興味ヲ感ジ「カ
 メラ」ニ收メ來ッタノガ次ノ圖デアアル、大正十五年七月十七日、場處ハ山陽線玉島驛ヨリ約一里ノ岡山縣備中

國淺口郡船穗村、此一村ダケデモ毎年約八萬圓ノ蘭ヲ産スル
 蘭ノ栽培ハ酷暑ニ初マリ酷暑ニ終ル、即チ原株ハ多ク畑ニ仕立テ一月上、中旬ノ頃水田ニ植エ付ケ其年ノ七月
 中ニ收穫スル、其頃ニナルト三―四尺ニモ伸ビ風デ倒レ易イノデ圖ノ如ク四方ニ繩ヲ張ツテ之ヲ支ヘル、其様